

◆令和8年度吉川市一般会 計予算

4名の議員が討論を行いました。

ー 反 対 討 論 ー

日本共産党吉川市議員団

遠藤 義法 議員

物価高で市民生活は厳しさを増しています。市は「単独

での灯油代、電気代の補助やエアコン購入補助、物価高騰手当の支給を実施する考えはない」との回答です。市制施行30周年イベントが40事業計画されています。市が最初に実施すべきことは、市民のくらしを支える事業です。

市民の外出支援、公共交通拡充の要望が多くあります。市は、路線バスは事業者と連携、きめ細やかな移動ニーズは、NPO団体や地域の移動支援団体などの力を借りてすすめる方向です。市民が期待する移動支援事業の主体は吉川市が責任を持ち行うべきです。タクシー利用助成は市街

地の方も対象とするべきです。

舞台公演製作支援業務委託料として500万円が計上され、今年度より200万円の増額です。施政方針で市民のくらしも市の財政も厳しい状況が続いていると言いながら、演劇事業に200万円も増額することに市民の理解が得られるとは思えません。

ー 賛 成 討 論 ー

SELECT吉川・自民・

参政・維新・無所属

菊名 克典 議員

本市は令和8年度、市制施行30周年という大きな節目を迎えます。これまでの歴史と先人への感謝を胸に、次世代が愛着を深め、関わりのきっかけ作りの各施策を高く評価します。まず、第一に避難所への空調設置や排水ポンプの更新、共保雨水ポンプ場の増強に向けた詳細設計といった「命を守る」取り組みは、市民の安全・安心に直結する重要な施策です。第二に、不妊治療助成や若者への伴走型

支援、教育現場のニーズに応じたGIGAスクール端末の柔軟な運用など、当事者目線の支援を評価します。第三に、学習支援の一貫体制の構築や文化芸術を通じた平和事業の工夫により、誰もが輝くまちづくりが進むことを期待します。最後に、吉川美南駅東口の文化施設整備や農業拠点開発など、地域の価値を高め、次世代へ継承する動きを注視しています。

未来会議よしかわ

戸田 馨 議員

本予算案は、市長が掲げる「市民一人ひとりが幸福を感じる未来の創造」という理念のもと編成され、自治体経営の方向性と未来への責任を示すものとして高く評価する。人口減少社会への転換期において、本予算は、どのような価値を未来へ継承するかという本質的課題に向き合う内容となっている。防災・減災やインフラ整備による命を守る施

策、子供や若者への包括的支援、市民参画や重層的支援による共生社会の推進、さらに文化芸術・農業・産業振興等

を通じた地域の価値の継承など、理念を具体化する施策が体系的に示されており、現場を見つめ、必要なものは伸ばし、役割を終えたものは再設計・再構築してゆくという姿勢や、市民と行政が現実を共有し共に未来を築く「社会を開く」という考えが明確であり、本予算案は吉川市の価値ある未来に向けた確かな一歩であると評価し、賛成する。

公明党吉川市議員団

大泉 日出男 議員

命を守るについて、減災元年から10年目を迎えた中、減災プロジェクトの開催により、市民との共働をテーマに減災・自助・共助の重要性を育み、その取り組みが広がりつつある点は評価。実際おこりうる災害は、まさに現場からの発露、知恵、判断力が、肝となることから、自ら備える

自助、その上での減災意識は重要であると考えます。

子どもの笑顔を未来につなぐについて、「不妊治療」における先進医療費用の一部を助成するとの事。埼玉県内でも限られた自治体での取り組みでもあり、市民に寄り添った助成制度であるため評価。

地域公共交通について、昨年開催したシンポジウムをうけて「地域の皆様のお力を頂きながら、全ての関係者の皆様で、地域公共交通の未来を作り上げていきたい」との事。地域発の、まずは、できるところからやってみようという機運の醸成が必要だと考え評価。いずれも市民の幸福実感の向上につながると考え賛成。

